

JCS/TAWC 受賞者の学会参加報告(AHA2019/ESC2019)

ESC2019 に参加して

東京大学循環器内科 吉田由理子
よしだ ゆりこ

この度は、第6回日本循環器学会 Travel Award for Women Cardiologists (JCS/TAWC) 賞に選出いただき、誠にありがとうございます。

2019年8月31日から5日間にわたり、フランスの首都パリにおいて開催されたヨーロッパ心臓病学会(ESC)に参加させていただきましたので、ご報告いたします。

パリはフランス最大の都市であり、ヨーロッパにおける政治・経済の中心都市であるとともに、年間外国人観光客が世界一の観光都市でもあります。パリでは、学会場だけでなく空港や市街地においてもESCの旗がたなびいており、歓迎ムードを感じるとともに学会の規模の大きさを感じることができました(図1)。

今回のESCでは世界150カ国を超える国・地域から30,000人を超える参加者が集い、新たな糖尿病や脂質異常症のガイドラインの発表、PARAGON-HFなどの大規模研究のセッションで大きな盛り上がりを見せていました。

また、ESCではより若手医師や研究者の積極的な学会参加と研究レベルの上昇を促す目的から、Young Communityの設立に力を入れており、若手研究者が発表する場が数多く企画されていることも印象的でした。

私が発表させていただいたAdvances in Science Sessionでは、心房機能研究の第一人者であるLiza Thomas医師によるKey lectureの後、若手医師3名が発表するものでありましたが(図2)、発表者4名中3名が女性でした。また人種も様々であり、ダイバーシティを肌で実感しました。



図1



図2 座長の Thomas L 先生, Donal E 先生と

私は、左房機能の低下が従来の心房細動発症の指標である左房拡大に先行して出現し、動脈ステイフネスと強く関連することを報告いたしました。会場からは、多くの質問を頂き、拙い英語ではありましたが、世界で活躍する研究者の方々と実りあるディスカッションをすることができ、貴重な経験を積むことができました。また、全日程

を通して数多くのセッションも聴講することができ、得られた知見をもとに、今後研究をさらに発展させていきたいと考えております。

最後になりましたが、このような貴重な機会をいただきました日本循環器学会に深く御礼申し上げます。

げます。

著者の COI (conflicts of interest) 開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

*

*

*